

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会 有機性排水処理技術ワーキンググループ会合(第2回) 議事要旨(案)

1. 日時：平成20年3月10日(月) 15:00～17:00

2. 場所：法曹会館 孔雀の間

3. 議題

- (1) 実証試験結果報告書の検討について
- (2) 実証試験要領について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

4. 出席検討員：藤田正憲(座長)、岡田光正、名取眞

実証機関：大阪府環境農林水産総合研究所 南 哲朗、山添 泰一
財団法人関西環境管理技術センター 門口 敬子、三納 清司
社団法人埼玉県環境検査研究協会 野口 裕司、浅川 進

5. 配布資料

資料1 平成19年度環境技術実証モデル事業検討会有機性排水処理技術
ワーキンググループ会合(第1回)議事概要(案)

資料2 平成19年度環境技術実証モデル事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野
実証試験結果報告書

2-1 固形有機物分解システム「ジャリッコ排水処理システム」
/株式会社マサキ設備 (大阪府)

2-2 電解式汚水処理装置(DZ101KC)/株式会社エヌティ・ラボ
(社)埼玉県環境検査研究協会)

資料3 平成19年度環境技術実証モデル事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野
のこれまでの経緯について

資料4 小規模事業場向け有機性排水処理技術 拡大ワーキンググループの実施報告

資料5 小規模事業場向け有機性排水処理技術(厨房・食堂、食品工場関係)実証試験要領
の見直しについて(案)

資料6 今後のスケジュール(案)

参考資料

- 1 小規模事業場向け有機性排水処理技術（厨房・食堂、食品工場関係）実証試験要領（第3版）
- 2 平成18年度実施状況に関するフォローアップ調査結果の概要（平成18年度実施状況に関するフォローアップ調査 調査結果報告書より）

6. 議事

会議は公開で行われた。

（1）実証試験結果報告書の検討について

実証機関から資料2に基づき各資料を説明した後、質疑。

固形有機物分解システム「ジャリッコ排水処理システム」／株式会社マサキ設備（大阪府）について

- ・日排水量に関しては実状にあったものを記載し、設計条件については参考情報とすべきとの指摘があった。
- ・電力の単位を kWh→kWh と訂正すべきとの指摘があった。

電解式汚水処理装置(DZ101KC)／株式会社エヌティ・ラボ（(社)埼玉県環境検査研究協会）について

- ・実証項目であったBODに関する記述を加える必要があるとの指摘があった。
 - ・コスト概算は、日単位で算出する方が情報として見やすいとの指摘があった。
 - ・電力の単位を kWh→kWh と訂正すべきとの指摘があった。
- ・実証試験結果報告書については若干の修正が必要ではあるものの概ね了承された。

（2）実証試験要領について

事務局から資料3、4、5に基づき、実証試験要領の見直し（案）について説明。

- ・連続式処理技術に対応している現行の試験要領を、現在ニーズのあるバッチ式処理技術にも対応できる試験要領へと見直すことが確認された。
- ・食品に類する有機性排水処理まで実証対象技術の範囲を拡大するため、現行の試験要領における（厨房・食堂、食品工場関係）から（厨房・食堂、食品工場等関係）とすることが確認された。
- ・汚泥発生量の実証項目への追加に関して、発生量を実証するためには、流入から流出までの物質収支を把握する必要があり、その方法は難しいものの不可能ではないことから、汚泥発生量を実証することは可能であると指摘された。
- ・上記三点に関しては、今後検討していく必要があるとされた。

（4）その他

事務局から、資料6「今後のスケジュール（案）」について説明。

事務局から、参考資料2「平成18年度実施状況に関するフォローアップ調査結果の概要」について説明。

- ・ 今回の会合については公開であり、議事についてはホームページに公開することが了承された。

(文責：環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)